

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社 第一食品様 本社工場 新	階数	地上4F
建設地	東大阪市高井田本通4丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	201●年●月●日
敷地面積	2,500 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社 木村 吉
建築面積	1,471 m ²	確認日	201●年●月●日
延床面積	5,215 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社 木村 吉男

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 89%
③上記+②以外の 89%
④上記+ 89%

92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
建築物におけるユーザーの生活アメニティ向上に関わる品質を確保しつつ、エネルギー消費、資源の消費、敷地外環境への悪影響の低減に配慮した計画。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
開口部遮音性能を向上させ、居室への騒音の侵入を防ぐ。 昼光率を向上させ、自然光の効率的な利用を図る。 自然換気性能及び、取り入れ外気への配慮をすること	天井高さを広く取り、リフレッシュスペースを確保することで、働きやすく居心地の良い空間を計画。 長寿命の部品・部材を選定することで、永くより良い状態で建築物を使い続けられる性能を確保。	建築設備に伴う排熱の位置等に配慮し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮性能を向上させ、空調用エネルギー消費量の低減を図る。	節水可能な仕組を装置し、上水使用量の削減を図る。	CO ₂ 排出削減に貢献することで、地球環境、地域環境、周辺環境に及ぼす影響を低減する。 交通処理負荷抑制に配慮することで、地域のインフラ施設に与える負荷を低減する。 光害対策として、広告物照明を行っていない。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】		建物名称	株式会社 第一食品様 本社工場 新築工事					
		建設地	東大阪市高井田本通4丁目					
		用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3		
②	みどり・ヒート アイランド対策					2		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					3		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.4	3	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.9	3	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								